

第 36 回春季展示（収蔵品展 7）

『かすかべの宝ものⅦ』 展示ガイド



5-1



3-4

展示期間 平成20年（2008）5月17日（土）～7月13日（日）

展示資料数 実物・パネル計52点

図・表	2点
写真パネル	14点
実物	36点

ごあいさつ

春日部市郷土資料館は、平成2年7月に開館いたしました。以来、市民の皆さまのご協力をいただきまして、今日までに郷土に関わるさまざまな資料を調査・収集してきております。

皆さまからご寄贈・ご寄託を受けました資料は、郷土資料館でクリーニングを行い、展示や講座、学術調査などで活用できるよう、順次整理作業を進めております。しかしながら、これまで収集いたしました郷土の資料は膨大な数にのぼり、未だ整理が手つかずのものも少なくありません。

郷土資料館では、小さな空間ではありますが、わずかずつでも収蔵品を紹介していきたいと考え、これまで6回にわたり収蔵品展を開催してまいりました。今回も、おもに平成19年度に収蔵・保管することになりました品々を紹介いたします。ご観覧の皆さまには、これらの品々から春日部の歴史を感じ取っていただければ幸いです。

平成20年5月

春日部市郷土資料館

1 原又右衛門 新方領耕地整理の功労者

原又右衛門（慶応元年・1865生～大正4年・1915没）は、武里地区大場の出身で、国へ働きかけて、明治42年（1909）から大規模な農地の改良を行いました。当時、「新方領」と呼ぶ広い範囲には、江戸時代以来の水田が広がっていましたが、一年を通して水が抜けない湿田でした。新方領は、現在の粕壁地区・豊春地区・武里地区及び、さいたま市岩槻区の一部、越谷市の一部にまたがる地域です。原又右衛門は水田の生産性を高めるため、農地を持つ人々を説得し、日本一とも言われた広大な耕地整理事業を実現しました。具体的には、今も残る会之堀川、新方川（千間堀）などを整備して、排水を良くしました。この結果、水田1反当たり2俵だった収穫が、倍の4俵にまで向上したといます。又右衛門は、大正5年の事業の完成を見ずに亡くなりました。その業績を称えた石碑が、大場・光明寺の参道に建てられています。

- 1 大正7年 豊春村大字谷原新田地内整理前湛水ノ光景
（『埼玉県 新方領耕地整理組合 記念帳』より）
- 2 大正7年 豊春村大字谷原新田地内整理後ノ光景
（『埼玉県 新方領耕地整理組合 記念帳』）
- 3 大正7年5月『埼玉県 新方領耕地整理組合 記念帳』（当館蔵）
- 4 明治28～33年 小作納穀通帳

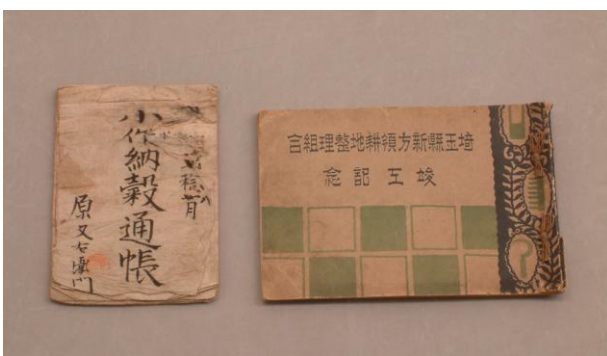
原又右衛門は地主でもあった。この帳簿は、又右衛門が農地を貸し出して、その使用料を小作米として納めてもらったときに記したものだ。

5 明治28年 相場割

農家の経営では、さまざまな計算をする必要があった。そのための便利帳のようなもの。なお、5と6は原又右衛門とは関係ない。

6 明治28年 平方題花録

和算の練習帳として使われたもの。土地の面積の計算法など。



1-4

1-3

2 お手本と棹ばかり

1 明治13年 ^{ひやくじだいほうけい} 百事大宝恵

家族や取り引き・付き合いのあった人々の住所と名前が載る。江戸の人が多いが、「カスカベザエ（粕壁在）大場村」や「粕壁在元新宿」の人名も記される。

2 棹ばかり

上から下げて、おもりと釣り合いをとって重さをはかる道具。^{けいたい}携帯用品。

3 明治43年 ^{しゅうじてほん} 習字手本 ^{ななたい} 七体いろは 全

習字のお手本。

3 商家のうちわ

春日部の歴史は、武士の館^{やかた}があった鎌倉時代、日光道中の宿場町であった江戸時代というように、時代ごとに特徴づけられます。明治時代以降も宿場町の名残りをとどめ地域経済の中核であった粕壁町は、東武鉄道の開通（現伊勢崎線・明治32年・1899）以降、商業の町として発展していきます。写真は、昭和10年（1935）ごろの粕壁の町の様子を撮影したものです。現在の春日部駅東口方面、春日部大通りです。かつての街道沿いに、蔵造りのお店が並ぶ中に、モダンな建物も見えます。展示のうちわは、ちょうど旧春日部市が誕生した後の昭和30年ごろ、町のお店でお得意さんやお客さんへ配ったものです。

1 昭和10年頃 粕壁の町並み ^{さんまいばし} 三枚橋（『粕壁町誌』より）

現在の三枚橋交差点（春日部大通りと文化会館・図書館への道の交差点）。

2 昭和10年頃 粕壁の町並み ^{かみまち} 上町（『粕壁町誌』より）

春日部大通りと春日部駅東口から古利根公園橋へ向かう道の交差点付近。

3 大正10年頃 ^{やさかじんじやさいれいまねん} 八坂神社祭礼記念 ^{しんまち} 新町（市内個人蔵写真）

八坂神社のお祭りは、現在の春日部夏祭りの原型。江戸時代の天王祭^{てんのうさい}。写真は新町橋をわたる一行。

4 昭和期 商家のうちわ

表 うちわの裏にある店名

① 洋品・百貨・洋服	株式会社中井屋
② 日帝のメヤム号・ゼブラ号・丸金号・子供車	中村屋輪店
③ 小林呉服店	
④ 大黒屋菓子店	
⑤ 革靴・ゴム長・サンダル・運動靴・草履	桐下駄・洋傘一般 井上履物店
⑥ 和洋酒・味噌醤油・たばこ	ふるいや

4 七福神の屏風

縁起のよいものを描いた屏風です。鶴に松、ひょうたんから駒、恵比寿様、大黒様、竹に雀、布袋(?)に月などの絵を、屏風仕立てにしたものです。お正月などに飾ったのでしょうか。

1 (近代) 七福神の屏風

六曲屏風仕立て。裏張りから近代のものであることがわかる。

5 商家の看板と道具

江戸時代の粕壁宿は、宿駅として栄えるだけではなく、周辺の農村と江戸とを結ぶ流通の拠点としても発展していました。食糧や生活用品を扱う商家や問屋も多く、道に面して店と蔵とを持つ家が軒を連ねていました。展示の資料は、旭町(旧寺町)で江戸時代から諸商売を続けてきた山田半六商店で使われていた品々です。同店には、幕末期から現代までに至る道具や帳簿などが、失われることなく伝えられていました。ここに紹介するのは、ほんの一部にすぎません。今回は、入り口や店内に掲げられていた木札や、主人が商うところである帳場を再現できるような諸道具を展示いたします。順次、整理を進め、折々に展示会などで紹介してまいります。

1 江戸期 両替商の看板(参考・当館蔵)

江戸時代の商家では、職業をイメージするような形の看板を出すことがあった。これは粕壁宿で使われたものではないが、宿場の商家もさまざまな意匠をこらした看板を出していただろう。

2 昭和期 東武塩業春日部営業所 木札

山田商店は、塩や砂糖の卸売りを行っていた。2～4はその看板・案内板。

3 近代 砂糖卸売り場 木札

4 近代 北武塩業株式会社 営業時間案内板

5 近代 山田本店 半纏

今で言うと、お店の制服である。

6 近代 帳場格子

帳場は、店の奥に設けられた、主人の仕事場。帳付けや仕入れ・売り上げの計算をした場所。

7 近代 帳場机

三方にちょっと洋風な囲いがある。

8 嘉永2年 銭箱

帳場において、一時的に金銭を入れておく箱。門を指して鍵をして簡単に開けられないようになっていた。現在のレジに近いもの。この銭箱は、「己 嘉永二 酉 十二月 求之 山田氏」と年代が記してあり、同家の歴史を物語る。

9 江戸期 証文箱

箱書に「山田伊左衛門」とある。中には江戸～明治時代の証文が入っている。

10 江戸期 銭拵 二朱金 計十両

二朱金は江戸時代鑄造された金貨。2枚で金1両となる。裏に「二朱金 拾両計 山田店」の墨書。

11 江戸期 錢枱 ^{にぶきん} 二分金 計二十五兩

二分金も江戸時代の金貨。2枚で金1朱、8枚で金1兩となる。裏に「丁卯 ^{ていぼう} 貳分金 貳拾五兩 山田氏」の墨書。「丁卯 (卯)」は慶応3年 (1867) か。

12 ^{こだま} 五玉そろばん

今の計算機。商売道具として欠かせないもの。

13 昭和9年新調 ^{しんちよう} 定木 ^{じようぎ}

何の定規か不詳だが、墨を引いた跡が残る。表に「定木 (店名) 山田商店」裏に「昭和九年八月吉日新調」とある。

14 ^{たんす} 筆筒 (参考・当館蔵)



5-8



5-10・5-11

6 書画と震災作文集 粕壁小学校の伝来品

粕壁小学校は、明治5年(1872)に粕壁宿最勝院^{さいしょういん}に開校しました。明治11年(1878)、現在の春日部市商工振興センター(アクシス春日部)の場所に、校舎を新築しました。その後昭和に入り、現在地(教育センター・粕壁小学校)へ仮校舎を建設。昭和14年(1939)に木造校舎が新築されました。展示の品々は、その粕壁小学校に伝えられてきたものです。著名人の書画と、大正12年(1923)9月1日の関東大震災のあと綴られた貴重な作文集^{かんとうだいしんさい}を展示いたしました。写真の多くは、同校に伝わっている写真から複写したものです。

1 (近代・年未詳) ^{かんざん} 観山画 「霞の富士」(粕壁小学校寄託)

作者下村観山(本名・晴三郎 明治6年生～昭和5年没)は、明治・大正期の著名な日本画家。東京美術学校(現東京芸術大学)で教鞭^{きょうべん}をとった。

2 幕末～明治期 ^{なかじまぶざん} 中島撫山書(粕壁小学校寄託)

中島撫山(名は慶、通称慶次郎、文政12年生～明治44年没)は、江戸で漢学者亀田綾瀬(父は鵬斎^{ほうさい})に学んだ人物。江戸で私塾を経営していたが、埼玉と縁があり、明治6年久喜新町(現久喜市)に私塾「幸魂教舎^{さきたまきようしゃ}」を設立、付近の門弟も多かった。「山月記」などが知られる小説家中島敦^{あつし}の祖父にあたる。

3 幕末～明治期 中島撫山書(参考・当館蔵)

大場村の名主家に伝来したもの。幕末の慶応2年(1866)に中島撫山は、同家に寄宿し、漢学の講義を行ったと伝える。

4 明治期 版木 小学読本 卷一（粕壁小学校寄託）

小学校の教科書用の版木。小学校で摺ったものか。あるいは、のちに県などから下付されたものか。

5 大正12年 大震災記念児童文集 尋常科三学年（粕壁小学校寄託）

関東大震災の文集。貴重な子供たちの声を聞くことができる。粕壁町では305戸が全壊し、死傷者29人を数えた。

6 大正12年 大震災記念児童文集 尋常科四学年（粕壁小学校寄託）

7 大正12年 大震災記念児童文集 尋常科五学年（粕壁小学校寄託）

8 大正12年 大震災記念児童文集 高等科（粕壁小学校寄託）

9 昭和14年 粕壁尋常高等学校落成記念 粕壁小正門

現在教育センターの場所に昭和63年まで建っていた木造校舎。

10 昭和初期 粕壁小学校 女子体操服

11 大正15年 粕壁小学校 運動会

12 昭和4年 粕壁小学校 学芸会記念写真

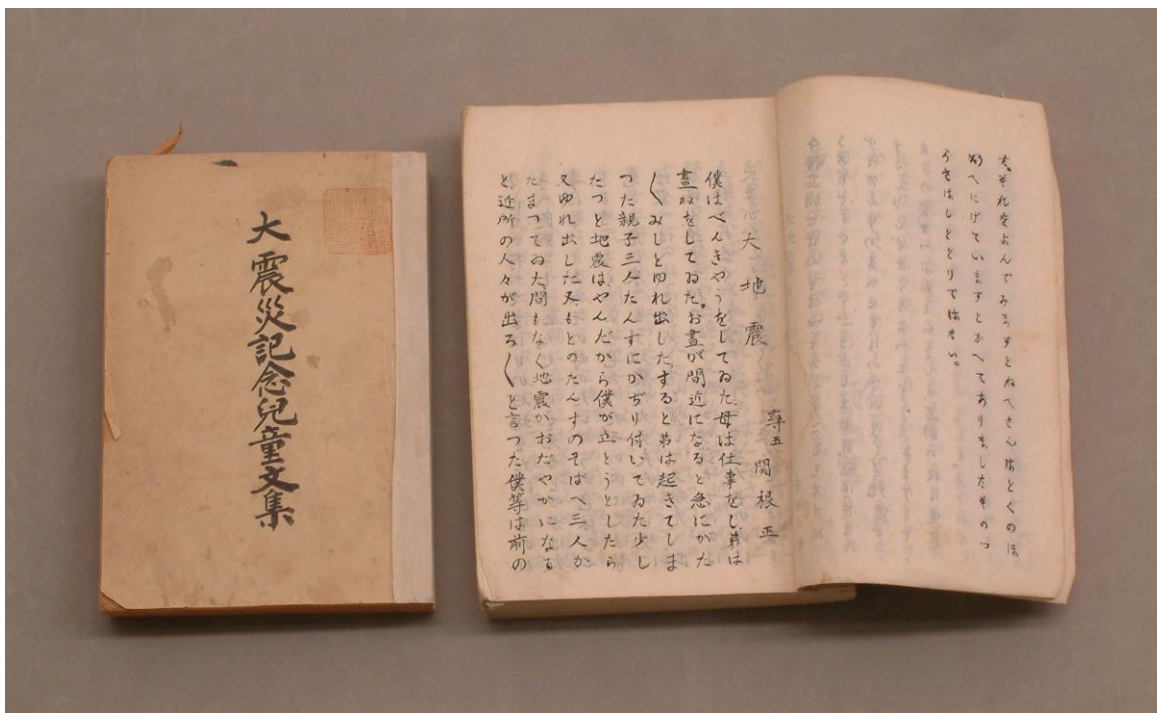
13 大正12年 関東大震災の被害 上町（6085番地）裏通り（『粕壁町震災写真帳』より）

14 大正12年 粕壁小学校 露天教場（『粕壁町震災写真帳』より）

15 大正12年 粕壁小学校 露天教場授業風景（『粕壁町震災写真帳』より）

16 昭和2年 粕壁小学校 校舎（『粕壁町震災写真帳』より）

校舎を支えるつかえ棒は、震災の傷跡を伝える。



6-8

6-7